

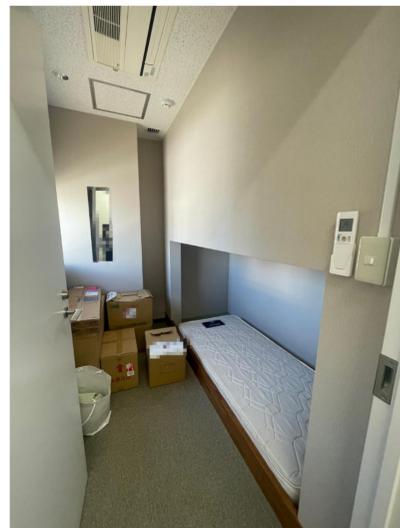
# 休養室のユニットベッド開発

## 背景と目的

社員が使用する休養室は、従来から2段ベッドを設置していても単独で使用している傾向があり、コロナ禍の現在でもその傾向は続いている。限られたスペースで空間を有効に利用するためには、現在も利用されているメゾネットタイプにすることで解決できるが、メゾネットタイプは複雑な納まりであるため、コストと施工時間が多くかかることが問題であった。また既製品のカプセルベッドを使用すると、必要以上の仕様となりコストアップとなってしまう。そこで、メゾネットタイプにおける2段ベッド部分をユニット化することにより、施工時間の短縮とコストダウンを目的として本開発に取り組んだ。

## 開発前の問題点

事務所や駅の間内改修工事の際、限られたスペースの中で必要な休養室数を確保しなければならない計画の場合、従来であれば右の写真のように、在来工法メゾネットタイプの休養室を採用することが主であったが、メゾネットタイプは複雑な収まりであるため**施工に時間がかかりコストが高いことが問題点**であった。

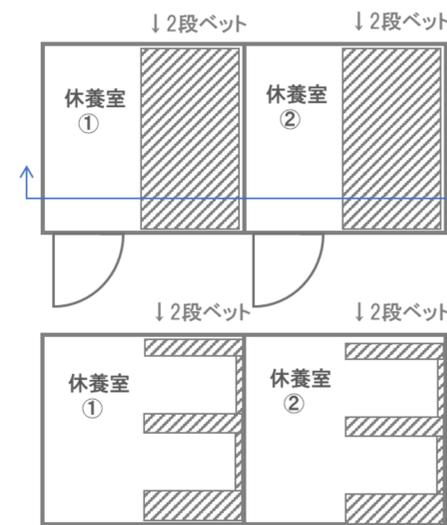


1階使用部分

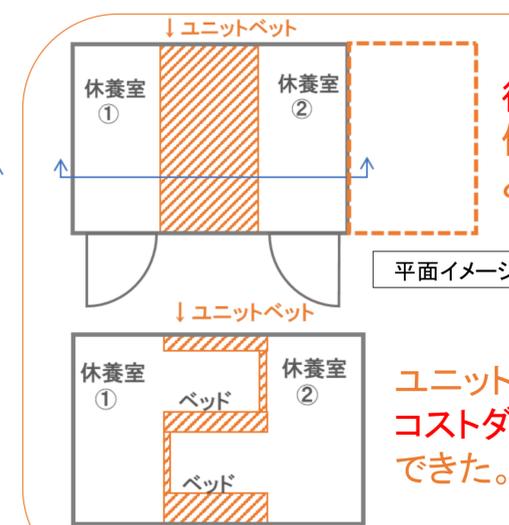


2階使用部分

## 開発してよくなった点



開発前



平面イメージ



断面イメージ

## 開発したもの



1階使用部分



2階使用部分

- 一般的なベッドフレームは鉄製で重量があるため、搬入が困難なケースがあったため、**軽量で強度が確保できるアルミニウム**を採用した。
- 従来の3/4のサイズ**で休養室を2室配置できるようになった。
- ユニット化することで、以下の表のとおり、**ベッド1台当たり600千円のコストダウンと4日間の工期短縮**を図ることができた。

表 コストと工期の比較

	コスト	工期
ユニット型2段ベッド	1,100千円	1日(1.5h)
在来式メゾネット型ベッド	1,700千円	5日